

令和5年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p>(1)北稜の魅力伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国際教育」については、withコロナの国際交流を充実させることができた。今後は、普通科単独校としての新しい国際教育の構築に取り組んでいきたい。</li> <li>「環境教育」については、環境保全から環境教育に戦略的にシフトすることができ、生徒自身が「環境の北稜」の体験をより積むことができた。今後は、世界を巻き込み、環境問題を解決する主体の育成を目指したい。</li> <li>「表現活動」については、総合的な探究の時間の再構築に、校内組織を立ち上げ取り組むことができた。今後も、校内組織を充実させ、全校体制で臨んでいきたい。</li> <li>「地域の課題解決力、京都No.1校」を目指した取組は、生徒会執行部が主体となり、前進している。今後は、全教育活動での展開充実を図りたい。</li> <li>withコロナの活動の中で、生徒会、委員会、部活動が、多様な生徒が輝く場として充実してきた。今後もこれらの活動の支援に力点を置いていく。</li> <li>「糧やかで落ち着いた生徒が多い」という北稜ならではの魅力」について、魅力発信ができつつある。今後も、生徒が誇りを持てる学校を目指していく。</li> </ul> <p>(2)北稜学習改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>焦点を絞った教科主任会議での議論や、公開授業等、組織的に授業改革に取り組むことができた。今後も教科主任会議等の組織を最大限に活用しつつ、「生徒起点」の学びの改革を進めていきたい。</li> <li>「気づきの支援シート」「モシサブ」等、生徒の学習や進路を保障するための挑戦的取組を行うことができた。今後も、これらの取組を育てていきたい。</li> <li>学びのICT化については、一定の評価を得ることができた。今後は、ICTの活用を通して、生徒の学びが質的に向上するための取組を開発していきたい。</li> </ul> <p>(3)北稜の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種広報媒体の見直しやSNSの活用を進めることで、本校の魅力を中学生と保護者に効果的に発信することができた。今後は、本校の強みである、中学生の多様なニーズに対応できる豊かな特色を持つ教育活動について、より具体的に発信していきたい。</li> </ul> <p>(4)北稜教職員体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国際教育」「初年度指導」「学びのICT化」「総合的な探究の時間改革」等チームでの議論、校内への発信を効果的に行うことができた。今後も、本校の教育課題に即応するチームを母体としながら、学校改革を進めていきたい。</li> <li>ミニ研修の充実等で、本校の教育課題を共有したり、スキルアップにつなげたりする活動が展開できた。今後は、校外の研修等も有効に活用しながら、教職員のまなびの充実を図りたい。</li> </ul>	<p><b>(1)「北稜ならではの国際教育」</b></p> <p><b>「京都岩倉に国際の北稜あり」と認知される学校へ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「岩倉から世界に果敢に挑戦する力」を育てる、普通科全員を対象とした国際教育を全教科・分掌で展開</li> <li>生徒の学ぶ意欲の喚起ならびに学びの手法獲得に重きをおく、「使える英語」が身につく英語科教科指導の確立</li> <li>普通科全員で取り組むオーストラリア研修旅行のプログラム開発</li> <li>「生きた国際交流」に向けた、海外姉妹校・交流校との交流充実と校数拡大</li> <li>北稜ならではの特別なエクステンジプログラムや語学研修の再構築</li> <li>本校の教育の柱「環境教育」や「表現活動」と連関した国際教育の展開</li> </ul> <p><b>(2)「まなびの森、北稜」</b></p> <p><b>「学びの喜び」を体験し、「自立した学習者」へと育つ学校へ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領対応、観点別評価、学びのICT化等の教育課題に対して、「ねらいや趣旨に基づいた」組織的な取組推進</li> <li>総合的な探究の時間「北稜探究」再構築を通して、すべての学びの土台となる「探究する力」の育成</li> <li>学び方や学習習慣を生徒が体験的かつ腹落ちしながら獲得できる「初年次サポート」の実施</li> <li>生徒・教職員みなが「読みかけの本を持つ」学校文化の構築</li> <li>世界を巻き込んで環境問題を「解決しようとする力」の育成</li> <li>地域をフィールドとして獲得した課題解決力をグローバルな問題解決につなげる、「地域の課題解決力、京都No.1校」を目指した教育活動の具体的展開</li> <li>「チーム」「解法」「習慣」をキーワードとした「北稜ならではの進路指導法」開発</li> <li>生徒が主体性を発揮する挑戦の場としての学校行事、特に「北稜祭」の充実</li> </ul> <p><b>(3)「多様性の森、北稜」</b></p> <p><b>多様性の中で主体的に、自立して生きる、「品格ある北稜生」が育つ学校へ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動、生徒会活動、委員会活動、学習チーム活動等、生徒が主体性を発揮し、挑戦する場としての学校機能の充実</li> <li>「生徒指導提要」改訂の趣旨にのっとり支援的生徒指導の展開</li> <li>「特別支援の観点」で全教育活動を見直すことによる生徒の多様性への対応</li> <li>北稜が岩倉地域のプラットフォームとなり、生徒の世界が広がることを目指した、地域連携の充実</li> <li>多様性に重きを置いた人権教育の充実。</li> </ul>

## 令和5年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策
教務部	学びにおけるICTの利活用を通して、「協働的な学び」と「個別最適化した学び」の実現をめざす。	一人一台端末による学習(BYOD)に向け、「スターディーサプリー」や「ロイロノート」の活用を促し、生徒起点の学びのICT化を進める。
		校務・学校ICT化に向けた本校の現状・課題を整理し、校内研修などを通して、教員間の共有を促す。
教育推進部	北稜高校の魅力伸長(北稜2.0st)を行い、その魅力の発信を強化する。	国際、環境、表現の3つの柱の魅力を伸長させるとともに、学校SNS等をより活用した広報活動を展開する。
		生徒のアイデアを取り入れるなど、生徒自身の主体性を活かした環境保護活動を行うとともに、その取り組みを学校ホームページ、学校SNS等で発信する。
国際教育	新たな国際交流の構築 北稜ならではの国際教育の実践	マレーシアの姉妹校をはじめ、様々な国の生徒と交流することで、多様な文化や習慣の中でも自己表現ができる生徒を育成する。 また、各交流後に国際交流委員会の生徒を中心にその改善点を検討し、次の交流に生かす取り組みを充実させる。
		数年先を見据え、生徒が各国に留学できるプログラムを開発する。 また、それに参加した生徒が、その経験を活かして校内での国際交流のリーダーとして活躍できるような環境を整える。
生徒指導部	学校行事の充実	生徒会、生徒会専門委員会の活性化を行い、「北稜祭」「体育祭」などの学校行事において生徒が主体的に活動し、学校生活をより充実させる取組にする。
	部活動の充実を図り、主体性を発揮する挑戦の場にする。	キャプテン会議や部集会を定期的に開催し、内発的動機を高め、主体的に部活動を運営する力を伸ばす。
地域課題解決力 育成	「地域の課題解決力、京都No.1校」に向けた取組の実践	地域課題と生徒の活動が円滑に結びつき、課題解決に向けた取組がしやすい環境を整える力を持つ生徒会を育成する。
		地域連携の成果を地域や世界に発信するアウトプットの場と、合意形成を図る機会を生徒に提供する。
進路指導部	「自律的・主体的な学び」を目指した進路指導の体系を構築する。	「仮7組チームで」解法の理解や定着にこだわった補習を実践し、チームで協働的に学習に取り組むことができる環境を整え、学習リーダーの育成をはかる。
		入試システムや模試の申し込み、進路希望調査などの進路情報をスタディサプリー等を利用して生徒、保護者に発信する。
保健部	特別支援教育を推進し、生徒の多様性に対応した教育活動を行う。	「気づきの支援シート」を昨年度以上に活用し、教育相談会議を通じて生徒の「困り感」の把握・共有に繋げる。
	生徒の主体的な活動としての保健委員会を活性化させる。	保健委員会による活動を見直し、特に北稜祭における役割を生徒と共に考え、実行する。
図書部	「学び」の場であるとともに「生徒の居場所」となれる魅力ある図書館づくりを行う。	学年・教科と連携しながら、計画的に生徒の読書習慣定着にむけた取り組みを行う(読書週間 読書の時間の設定 定期的な新刊案内 ニュース発行など)。
		図書委員会を中心に「読書」の楽しさ・大切さをイベントだけではなく日常の活動を通じて全校生徒に還元させる(新聞「びぶりおてーく」の紙面充実など)。
事務部	学習や部活動へ積極的に参加し、学校生活に喜びを感じられる環境作りを目指す。	学びのICT化等教育活動のさらなる充実に向け、他の分掌や教科との連携を密にしながら効果的な予算執行を行う。
第1学年部	それぞれの生徒が主体的に生きる力を伸長させることで、多様な生徒の可能性を育てる	台湾やマレーシアとの生徒交流を通じて、多様性を尊重した国際感覚を養い、オーストラリア研修旅行に向けて、主体的に企画・運営することができる力を育成する。
	基本的な生活習慣の確立を、保護者と連携を取りながら目指す。	生徒からのサインを見逃さず、家庭との連携を密に取ることで継続的に生徒の様子を見守り、注意喚起を促していく。
第2学年部	学校行事に主体的に取り組み、表現力・コミュニケーション力・国際感覚を養う。	研修旅行や北稜祭に向けて委員会を定期的に開催し、生徒発信の企画を導入する。学びの多い研修旅行になるように、事前学習を充実させる。
	進路実現に向けて自ら学び続ける主体的学習者の育成を目指す。	進路達成プログラムを活用して進路先の研究を行い進学への意欲を高める。目標設定シートを使用して明確な目標を立てさせ、学期毎に確認させることで継続的な学習を促す。
第3学年部	進路実現に向けた主体的に行動する力の養成及び生徒が満足できる進路の実現。	高校卒業後の人生を考えることで、生徒それぞれの多様な進路を実現できるように、進路指導部と密接に連携しながら、生徒に目標をもたせて、適切な時期に適切な進路指導をしていく。
	学校行事を利用した充実した高校生活の推進。	最終学年として、学校行事(特に北稜祭や体育祭)において中心的な役割が果たせるように、また、遠足などの学校行事においても、国際や表現を意識した行事目標を達成できるような積極的な行動を指導する。

## 令和5年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策
国語科	学びのICT化、協働的な学びを意識するとともに、生徒が「読みかけの本を持つ」学校文化の構築のため、授業内での読書活動を推進する。	1年は、中学までの読書体験をふまえながら高校初年度の読書を広げられるように、学期ごとに「ブックレビュー」に取り組みせ、お互いの読書体験を共有させる。 2年は、「論理国語」や「文学国語」の単元で読書の意義について伝えと共、単元内容と関連付けて、本をお互いに紹介し合う取組を実施する。 3年は、単元終了後、複数のテーマの中から一つ選ばせ、それに関する本を選書・読書させる。その後、ICT(ロイロノート)を活用してレポートにまとめ、グループワークによる協働的な学びによりテーマに対する知識を深化・拡充させる。
地歴公民科	地域を起点としてグローバルな視野を養う学びを、科目の特性を活かして展開する。	グローバルな地理的・歴史的認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向や関わりに注目しながらの授業展開し、地域社会との関わりをなかで、主権者意識を育み、SDGsの目標達成をめざす教育指導を実践する。
数学科	個別最適化を目指す教材と指導方法の開発に取り組み、課題解決力の向上を推進する。	生徒起点で教材開発や指導方法(視聴覚教材・ICT活用)を開発し推進する。また、地理総合、公共、歴史総合及び「総合的な探究の時間」において課題解決力を向上させる取組を推進する。
数学科	探究活動において、自ら問いを見出し、それを解決していくための力を育む。	・探究レポートなどを通じて、数学と関連した興味・アイデアを掘り起こし、課題を発見する力を養う。 ・論述の家庭に主眼を置くことで、体系的に事象を考察する能力の情勢を図る。
数学科	大学入試に対応できる力を育てる。	・「解答そのもの」ではなく「解答を導く過程」に主眼をおいた学習の定着を図る。 ・アドバンスクラスや英語人文・環境理数コースを中心に、模擬試験や入試の対策を行い、入試に通用する思考力を養う。
理科	自然現象への興味・関心を持たせる。科学的思考力を育む。	身近な自然現象を授業で積極的に扱ったり、演示実験、模型、ICT機器を活用し、興味・関心を持たせる授業を行う。座学および実験・実習において協働的な学びを取り入れる。
理科	授業への集中力を高め、日常の学習習慣を確立させる。	年間を通じて日々の授業の重要性を強調する。明確で細かな指示を心がけ、生徒がスムーズに学習に取り組めるようにする。学習習慣の確立のため、課題プリント、実験・実習レポート等を定期的に提出させてチェックし、小テストも行う。
保健体育科	対話的に授業を展開して深く学び、ICTを活用し広く、主体的に学ぶ力を育てる。	・ロイロノートを用いた「課題発見」から、「課題克服」につながるよう考え方、調べ方の思考力の向上を図る。 ・調べ学習とディスカッションをセットとして考え、生徒自身のアウトプットによって、深く学ぶ力の向上を図る
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	生徒のレポートやアンケートを用いて、目標の設定と振り返りをさせることにより、芸術における諸能力が高まったかどうかを評価させる。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTやアクティブラーニングを活用した授業を展開する。
英語科	新学習指導要領に基づいた指導と評価方法の構築	指導方法や評価方法の構築に向けて、教員間で適宜意見交換を行い、共通理解を図る。
英語科	「国際教育」の中心的な教科として、生徒の学習意欲と学力の向上	生徒全員を対象とした国際交流の機会を充実させ、GTECなどの外部試験に対応できるよう、通常の授業と連携した授業計画を作成し、生徒の学力向上を図る。
家庭科	自立と共生について様々な角度から考え、行動できる力を養う。	実験・実習、課題学習、振り返りプリントなどを活用した主体的な学習を取り入れる。 ICTなど様々な教材を活用し、暮らしと社会の課題を結びつける。
情報科	実生活において情報技術を正しく効率的に利用できることを目標とする。	基本的なPC利用・キーボード利用の修得を目指す。 情報技術の進歩を体験しながら、ネットワークを意識した利用方法が身につくよう指導する。
総合的な探究の時間	生徒起点の「問い」から始まる探究学習を重視し、すべての学びの土台となる「主体性」や「協働性」、「創造性」を養う。	生徒自らが「やりたい」「学びたい」と主体的に取り組めるように、生徒の疑問や興味を引き出すワークや対話を行う。
総合的な探究の時間	学びと地域との繋がりを意識することで実際に社会に参画しようとする態度を育成する。	探究のサイクルである「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」→…を行うなかで、課題を地域から見いだす・地域でアンケート調査をする・地域で発表するなど、地域との関連を重視し、学びが実社会に活きる感覚を経験させる。